

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500258		
法人名	医療法人 信和会		
事業所名	グループホーム 和楽	ユニット名	ばら棟
所在地	小林市堤2939番地		
自己評価作成日	平成28年6月30日	評価結果市町村受理日	平成28年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokansaku.jp/45/index_nhp?action_kouhou_detail_2015_022_kanistrue&amp;izvosvoCd=4570500258-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokansaku.jp/45/index_nhp?action_kouhou_detail_2015_022_kanistrue&amp;izvosvoCd=4570500258-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成28年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営する病院、介護療養型医療施設などが同一敷地内にあり協力体制ができています。また、認知症専門の医療機関でもあり常に相談できる体制である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの管理者やリーダーは、利用者や職員の状況を把握して気配りをしている。職員との関わりを常に持つよう努めている。また、家族からの意見や要望を聞き入れる体制を整えており、得られた意見や要望を改善につなげている。医療法人が経営する病院、介護療養型医療施設が同敷地内にあり、認知症専門の医療機関でもあるため、常に相談や協力を得られる体制にある。職員が安心して利用者の支援に専念できる環境にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ばら棟	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、創設者の思いがこもった「和気あいあい」とした生活が送れるようにしたい、という思いがあり、スタッフもその思いを大切にして勤務に努めている。	創設者の思いがこもった企業理念を基に、毎年職員でホームの目標(ホーム理念)を掲げ、利用者・地域・職員の3つの大きな柱を入れて共有を図っている。しかし、日々の振り返りを十分行い、実践につなげるまでには至っていない。	理念に沿った目標を毎年作り上げているが、日々の振り返りが十分とはいえない。今後、全職員が共有し、実践につなげるよう体制を整えることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と挨拶などを積極的に行っている。現在、区長は代行で活動があまりできないが、民生委員の方と連絡をとり、情報交換など行っている。	買い物や散歩時に、地域の人に積極的に挨拶するよう目標を掲げ、地域とのつながりを大切にしている。夕涼み会に近隣の人が来訪することもある。また、近隣の介護事業所との交流も計画中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの問い合わせなどに対応している。入居関係だけでなく、介護全般にわたってお答えできる範囲で行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催して、スタッフに関係している事は朝のミーティングなどで報告している。食事などもして頂き、意見などうかがい今後の参考にしている。	会議では、転倒報告の見守りの仕方に対する意見や食事の味付け、食事時の雰囲気作りなどへの助言が活発になされている。利用者が安心して快適に暮らせるホームの運営につながるような会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当と連絡をとり、問題が発生した場合には相談や協力を頂いている。また、会議に来られる担当職員にも相談がしやすい状況である。	利用者への対応や家族とホームとの問題、対応困難事例などの相談を行っている。日頃から連絡を取り、協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内を歩き回る事が多くなり、目が離せない時もある。玄関の開放を試みるも、なかなか難しい状況である。全員で協力しながら対応している。	同一法人による処遇や拘束についての研修を毎月行っている。落ち着いた利用者には一緒に散歩に出たり、転倒の危険性のある利用者には付き添って一緒に歩くなど、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアなどのアンケートを一人一人行い反省をし、スキルアップを図っている。「待つ」という言葉を使ったりしているため、スタッフも使わないように意識している。			

自己	外部	項目	自己評価	ばら棟		外部評価	
				実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		地域の後見人ネットワークの会議に参加して、必要な情報提供などがある。また、制度の必要な方には紹介など行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		入居時には、「重要事項説明書」に基づき、家族と話し合いで説明、理解、納得していただき契約を結んでいる。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		家族や利用者の方から出された意見や苦情など、必要に応じて話し合いなど行う。また、月一回のお便りでもお知らせすることもある。		家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りがなされている。また、アンケート調査も行っており、出された意見や苦情については、「和楽だより」で内容と対応策について家族に伝え、共有して運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		運営に関する職員の意見や疑問などは話を聞いたり、朝のミーティングで話す事もある。また、法人としての話など、全体会などではなされる。		朝のミーティングで出された職員の意見や提案は、月2回の管理者、リーダー会で話し合っている。年に1回は管理者、リーダーとの個人面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		就業環境の整備に努め、労働時間厳守での働きができています。休みの希望を聞き、勤務に反映している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		職員の育成を考え、病院内外の研修会を受ける機会をもうけ、係りの担当を持たせ各委員会に参加し学んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		地域の研修会で情報交換など行っているが、交流はそこまで深まっていないが、GHの連絡協議会や居宅・小規模などの会議にも参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	ばら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りに努めている。なるべく根気強く傾聴している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅のケアマネを通じて、家族との話し合いを十分に行い、ホームでの支援の内容を説明し、納得がいくよう十分に話し合いをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに対応できる事はしているが、難しい事は、検討を行い、家族との協力をもらいながら対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の立場を考え、対応している。一緒に食事をしたり、洗濯物をしたりと生活を共に過ごすようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会にスタッフと話し合いの場をもうけ、状況を伝えたりして、コミュニケーションを図るなどしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じて、自宅の訪問や家族の面会などしているが、スタッフの都合でできない事もある。しかし、時間ができた時はドライブなどの気分転換などを行っている。	職員と一緒に自宅や美容院に行き、なじみであった近所の人と挨拶や会話をする機会を設けている。また、友人や近所の人への来訪もあり、なじみの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格を把握し、気の合う人、そうでない人などを、上手に配置の検討を行い、穏やかに過ごせるように気配りしている。			

自己	外部	項目	自己評価	ばら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、その後の状況を家族や施設側と連絡している。また、入院時はスタッフが面会などに行き状態を把握している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添って話を聞く等している。また、本人が過ごしやすいように家族共、一緒に検討したりしている。		家に帰って「草取りをしたい」という希望があれば、利用者と自宅に帰り草取りをするなど、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や入居前の情報を得て検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の情報収集行っている。また、新たに知りえた情報などはアセスメントシートへの記載や個人記録を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状況把握に努め、本人ができる事をお願いしたり、職員と一緒にできる事などを考え取り組んでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当スタッフを交えてカンファレンスを行っている。		本人、家族、必要な関係者で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。口臭があるので検討してほしいという意見があり、口腔ケアのプランにした事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記載したり、申し送りノートを利用して情報伝達をしている。また、内容に応じて朝のミーティングの活用もしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人にとって必要なサービスについては他のサービスを利用する事もある。また、本人や家族の要望に応じて、他の事業所と連絡やサービスを利用する事もある。			

宮崎県小林市 グループホーム和楽(ばら棟)

自己	外部	項目	自己評価	ばら棟		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、行事などで民生委員やボランティアの方の協力をいただきながら対応している。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所初めに、かかりつけ医をどうするか相談を行っている。(家族の希望に応じて対応。)	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診には、基本的に家族が付き添うが、職員が付き添うこともある。情報提供は文書にて行い、受診後の情報の共有は、申し送りノートで行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小林保養院の外来看護師と連携を図り、状態変化に応じて相談や報告を行い、状況に応じては院長から指示を頂き対応している。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内に設置している、地域連携室のスタッフとの連絡を取り、柔軟な対応を心掛けている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の悪化や身体面でのADLの低下に伴い、対応が困難になってきた場合には、できるだけ早めに家族や担当医に相談しながら、今後の検討を行う。	看取りの指針や同意書を整理しており、看取りの事例もある。同敷地内にある病院の看護師との連携体制も整えているが、本人や家族の意向を踏まえ、安心して納得した最期を迎えられるよう支援できるのか、職員が不安を抱えることもある。	重度化した場合や終末期のあり方について、明確な手順等を作り、家族が安心して見守られるような、チームで支援できる体制作りを期待したい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にはできていない。夜間は一人体制であるが、他のユニットの協力体制で急変時や事故の対応ができています。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院と協力して避難訓練を実施している。災害の発生時に備えた取り組みも行っている。	訓練は、同敷地内の法人グループと協力して行っている。居室の入り口には、救助しやすいように表示がなされている。備蓄や避難場所を法人敷地内に確保している。避難時にスロープが必要であるという意見が出され、設置している。区長、民生委員の協力も得ている。			

自己	外部	項目	自己評価	ばら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは利用者への言葉使いに気を付けている。また、状況に応じて方言などを使い親しみを持って対応している。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、一人ひとりを尊重し、「その人」に対する言葉かけで対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に言葉かけをしており、今どうしたいのか、何が不安なのかなどを感じとるように心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別にスケジュールを決めておらず、その日の状況に応じて対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容は本人や家族の希望にて対応している。最近では、訪問美容をりようしている方が多くなってきた。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はスタッフと一緒に頂き、片付けは利用者自ら手伝ってくれている。(本人が希望した時にお願いしている。)	利用者の食べたい物を聞いて一緒に食材の買い物にいたり、ラッキョウと一緒に漬けたり、運動会ではバイキングをしたりと、食事が楽しみとなるような支援がなされている。利用者の状況に応じて刻んだり、トロミを付けたりする支援もなされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを行い、食事のバランスを考え対応している。(個別に時間をずらして対応するなどしている。)			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけや洗面所への誘導を行い口腔ケアを行っている。自分でできる方もいますが、声掛けを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	ばら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の状況に応じて、リハビリパンツや尿取りパットを使用している。また、排泄パターンを知りその人にあつた対応をしている。	リハビリパンツ使用から布パンツになった利用者やトイレ誘導を行い失禁がなくなった利用者もいる。夜間もタイミングをみて声掛けを行い、トイレで排せつができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便・排尿チェックをしている。必要に応じて本人に確認を行い、下剤などの調整をおこなう			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	現在、一日置きの入浴となっているが、一人一人がゆっくり入浴できるように心がけている。(午後の時間帯)	入浴を拒む利用者には時間を空けて声掛けをしたり、後日に変更するなどして工夫している。また、過剰な支援にならないよう、利用者のペースにあわせて個々に沿つた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は、対話などを行い、安心して休めるように対応している。また、環境も考え、冷暖房などの調整も行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について個人記録に記載している為、その記録で確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分でできる事は、台拭きや洗濯たたみ、掃除などお願いしている。また、レク活動をとりにいれ、気分転換をはかれるようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調、気分に合わせて、散歩や買い物、ドライブなどに出掛けている。また、必要に応じて面会や外出などの協力をもらっている。	定期的に家族と食事に出掛ける利用者もいる。プランターに花や野菜を植えたり、ゴミ捨てや洗濯物の取り入れを職員と一緒にするなど、日常的に外に出る機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	ばら棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自分で金銭管理は難しい状況である為、ホーム側で管理している。しかし、外出時に個人で管理したい方には本人持ちとして対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した場合は、電話や手紙のやり取りができるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から清潔に努め、季節の花や折り紙作りなどで、ゆっくりした空間作りを行っている。	食堂とリビングが別になっており、食事場所と日中過ごす空間でそれぞれゆっくりと落ち着いた雰囲気の中で居心地良く過ごせるようにテーブル配置や採光、テレビの位置等にも工夫がなされている。ホーム内は清掃が行き届き、臭気等もない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや各居室を利用したり、ソファを置き自由に過せるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方が使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂くように声かけを行っている。しかし、状態に応じて家族と相談しながら対応している。	居室には使い慣れたテーブルや椅子、ソファ等が持ち込まれている。家族の写真を壁に貼ったり、たんすの上に飾るなど、本人が落ち着いて過ごせる部屋となるよう工夫がなされている。家族や本人が話し合い、ベッドではなく畳を使用している居室もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活が行えるように、手すりが必要な場所は増やしたり、ベッド柵の取り付け、ベッドの交換などを行っている。			